

3年A組 社会科学学習指導案

1. 単元名 市場経済と金融

2. 目標

- (1) 市場経済や金融の動き、職業の意義と雇用問題に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 市場経済や金融の動き、職業の意義と雇用問題について多面的・多角的に考察し、そのあり方について様々な考えや立場から公正に判断する。
(社会的な思考・判断)
- (3) 市場経済の仕組み、金融の動き、職業の意義と雇用問題などに関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりする。
(資料活用の技能・表現)
- (4) 市場経済の仕組み、金融の動き、職業の意義と雇用問題などについて理解し、その知識を身に付けている。
(社会的事象についての知識・理解)

3. 学習にあたって

(1) 教材観

経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、市場経済の基本的な考え方、現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させること、また、企業の役割及び社会的責任について考えさせることを主なねらいとしている。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考えさせるものである。

小学校では、経済に関して「高度成長と暮らし」のように「生活」に着目して学習しているため、生産や消費のあり方を学習していても、そのしくみまでは及んでいない。従って、初めて本格的に市場経済を学習することになる。その意味でも、本単元は生徒の経済への学習意欲を高めるという重要な役割を担っている。

(2) 生徒観

基礎学力調査の分析からみると、本学級の生徒は全体的に「資料活用の技能・表現」する力が優れ、「社会的な思考・判断」する力が今一步である。

はじめて本格的に経済の学習にふれるわけだが、経済というものがいかに自分の生活に関わりが深いかという意識が薄いように思う。ただ、提示された課題に対しては前向きに受け止め考えようとする姿勢がよく見られるので、課題を解決する中で、経済を身近に感じられるようになるにちがいない。

(3) 指導観

提示された課題に対しては、熱心に取り組むことが期待されるので、補充的な問題や発展的な問題を多用しながら、市場経済の基本的な考え方、現代の生産の仕組みのあらましを理解させたい。その際、経済用語をていねいに説明しながら、学習意欲を高めたい。

個々の理解に応じた課題を設定することで、それを解決するために資料をいかに活用したらいいか、どのように考えをまとめ表現したらいいかを理解力に応じて指導したい。また、経済は、社会の動きと連動することが多いので、評価に際しては資料やグラフの読みとりを中心に行いたい。

4. 学習計画と単元の評価規準

時数	学習内容	①社会的事象への 関心・意欲・態度	②社会的な 思考・判断	③資料活用の 技能・表現	④社会的事象について の知識・理解
1	市場経済のしくみを知ろう。	商品の価格の決めり方を考え、経済についての関心を高めている。			
2 本時	価格の変動のしくみを知ろう。		需要と供給の関係に注目し、価格変動のしくみを多面的・多角的に考える。		
3	市場と価格の関係に気づこう。			グラフや資料から、価格が市場に与える影響を読みとっている。	
4	金融のはたらきを知ろう。				金融機関が家庭・企業の仲立ちをしていることを理解している。
5	生活向上のための努力を理解しよう。		労働における諸課題を、さまざまな立場から公正に判断している。		

5. 本時の学習

(1) 題 材 価格変動の仕組み

(2) ね ら い 需要と供給のしくみを多面的、多角的に考える。

(3) 評価規準 ② 需要と供給の関係に注目し、価格変動のしくみを多面的・多角的に考える。

(4) 研究主題との関連

本学級生徒は、グラフや資料の読みとりに関して優れている。それは、地理歴史分野で県の平均通過率を越えていることから伺える。こうした資料活用能力をさらに高めることで、社会科に対する興味関心を喚起し学力向上につなげたい。グラフや資料の読みとりは、自ら学ぶ姿勢につながりやすいものであり、これを契機に知識や理解力が身につけてほしいものである。

学習にあたって、前時の評価を生かした内容とするため「導入1」「導入2」を設けた。前時の学習が定着している場合は、「導入1」のように需要と供給の関係に関連するような事例から入りたい。価格変動のしくみが理解されていない生徒が多かった場合は、「導入2」のように入荷量と価格の変化を再度学習したうえで本時の展開に入りたい。

※ 基礎学力調査で低かった興味・関心については、視聴覚機器を活用することで意欲的な取り組みとなるよう配慮した。

(5) 学習活動と評価

過程	学習内容・活動	評価規準・評価方法	指導上の留意点
導 入 1	・前時の確認をする。 (需要・供給の関係と価格の変動)		・「台風で落ちたりんごの写真」からりんごの価格がどうなるかを押さえる。
導 入 2	・前時の確認をする。 (需要・供給の関係と価格の変動)		・需要と供給の関係を押さえる。
展 開	・需要・供給曲線のグラフを読みとる。		・具体例を提示し、グラフ上のどの点になるか考えさせる。
	今日の目標・・・価格変動のしくみを考えよう。		
	・商品の価格が決まるしくみを、演習を通して理解し、変動の仕組みを考える。		・教科書の具体例を提示し、需要量、供給量の変化によって価格が変動することに気づかせる。 ※視聴覚機器を活用して、興味・関心を高めていきたい。

展	<p>■評価の観点② 需要と供給の関係に注目し、価格変動のしくみを多面的・多角的に考察している。</p> <p>□評価方法 パソコン画面での演習の内容を読みとる。</p>	
	<p>評価規準に達している生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業革命で大量生産された綿織物の価格が安くなったしくみをワークシートで作図させ、その理由を理解させる。 	<p>評価規準に達していない生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクターを使って、グラフの任意の点が何を示しているかを写真と関連させながら説明する。 価格のしくみをパソコン画面に送信し、再度説明する。
開	<ul style="list-style-type: none"> パソコンを使って、基礎用語を覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識理解に関する問題に絞り、基礎的な学力が身についているかを確認できるものとする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 評価カードの記入 需要と供給の関係と価格変動のしくみが理解できたか確認しながら記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の小テストを予告し、家庭学習の意欲が持てるようにする。

1年B組 音楽科学習指導案

1 題材名 篠笛に親しむ

「とうふ屋 夜鳴きそば たこたこ上がれ 焼いも屋 さお竹
一番星 夕焼け ほたる来い ひらいたひらいた」

2 目標

- (1) 篠笛に関心を持ち、表現することに意欲的に取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 篠笛の音や奏法のおもしろさを感じ取り、器楽表現を工夫する。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 篠笛の音の特性や奏法に気をつけて、表現する技能を身に付ける。
(表現の技能)

3 学習にあたって

(1) 教材観

学習指導要領では、3学年間を通して1種以上の和楽器を用いること、となっている。これまで本校では、2学年上での「箏曲 六段の調べ」のところで、箏の学習と練習に取り組んできた。器楽に関しては、1学年からアルトリコーダーを取り入れてきたが、篠笛を学習教材として取り上げるのは今回が初めてである。

篠笛はリコーダーのように安易に吹くことができない楽器である。また、同じ音が続く時も、リコーダーのようにタンギングを用いず、指をはねることによって吹くという特徴もある。そこで音が出るようにするために、また美しい音で吹くために、生徒たちは試行錯誤しながら練習をする必要がある。この取り組みの中で、自分や他人の音を耳でよく聴くということの大切さを再認識し、また普段感じることでできなかった日本の音や音楽のすばらしさを、簡単なわらべ歌の練習を通して感じ取ってくれればと考えている。

(2) 生徒観

入学当初は、新しい環境で落ち着かない様子であったが、徐々に中学校生活にも慣れじつくり取り組む姿勢が見られるようになった。女子生徒の中には、音楽好きで美しく歌おうとする雰囲気も感じられる。生徒は2学期に入り、文化祭の合唱コンクールに向けて、クラスのまとまりを大切にしながら合唱練習に取り組んできた。

七尾周辺でお囃子用に使われている篠笛は、七本調子六穴であるため、出ない音もあるので、今回は唄用の七本調子七穴で樹脂製の篠笛を使って取り組むことにした。

(3) 指導観

生徒は全員、小学校でソプラノリコーダーを学習しており、その中の一部は地域の祭囃子で篠笛を吹いた経験もあるので、笛を吹くということに対する抵抗は、ほとんどないように思う。しかし、リコーダーと篠笛では、吹き方や音階、楽譜など全く違うものである。今回の学習の中で、微妙な息遣いや角度の調整を必要とする音の出し方や、タンギングをしない奏法を習得し、徐々に音を増やししながら、身近なわらべ歌や民謡を吹くことで日本音楽に親しみ、さらに興味・関心が深まってくれることを期待したい。また、個々の学習目標を明確にしながら、個人・グループまたは一斉の学習形態を工夫したり、ワークシートの記入や発表活動を通じた評価を取り入れ、時には地域の祭りで練習している生徒たちを生かす場面も設定しながら、どの生徒も意欲的に学習活動ができる授業を進めたいと考えている。

4 学習計画と題材の評価規準

時数	学習内容	①音楽への 関心・意欲・態度	②音楽的な感受や 表現の工夫	③表現の技能	④鑑賞の能力
1	<ul style="list-style-type: none"> ・構造 ・姿勢と構え方 ・指孔のふさぎ方 ・息の当て方 ・練習曲 「とうふ屋」 「夜鳴きそば」 	<p>篠笛の音に興味を持ち、音を出すことに意欲的である。</p> <p>(活動観察・ワークシートの記入)</p>			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・息遣い ・運指 ・練習曲 「たこたこ上がれ」 「焼いも屋」 「さお竹」 	<p>篠笛の奏法に関心を持ち、表現することに意欲的に取り組んでいる。</p> <p>(活動観察・ワークシートの記入)</p>			
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・息遣い ・運指 ・「打つ」奏法 ・練習曲 「一番星」 「夕焼け」 		<p>篠笛の初歩的な演奏方法のおもしろさを感じ取って、器楽表現を工夫している。</p> <p>(活動観察・ワークシートの記入・発表活動)</p>		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・息遣い ・運指 ・練習曲 「ほたる来い」 「ひらいたひらいた」 他 			<p>篠笛の初歩的な演奏方法に気をつけて、表現する技能を身につけている。</p> <p>(活動観察・ワークシートの記入・発表活動)</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自己選択曲による発表会 ・学習のまとめ 			<p>篠笛の音の特性や奏法に気をつけて、表現する技能を身につけている。</p> <p>(活動観察・ワークシートの記入・発表活動)</p>	

5 本時の学習

(1) 教 材 篠笛に親しむ 「 一番星 夕焼け 」

(2) ね ら い 「打つ」の表現を工夫しよう。

(3) 評価規準 ② 篠笛の初歩的な演奏方法のおもしろさを感じ取り、器楽表現を工夫している。

(4) 研究主題との関連

全員が意欲的に参加し、篠笛を楽しめる授業にするためには、意欲を喚起することが必要である。生徒自身が先を急がず、自分でできそうな曲を具体的な目標として、着実にできるようにすることが大切だと考えている。そのためには、力の差にかかわらず、ワークシートを活用した自己評価や友達との相互評価、発表場面等の設定をし、緊張感のある活動ができればと考えている。

本時の学習活動では、前時で学習した音出しや練習曲の進み具合を、あらかじめワークシートで点検し、ほとんどが評価規準に達していた場合は「導入1」から、また、評価規準に達していない生徒が多かった場合は「導入2」のように復習の時間を設けてから進めたいと考えている。

※「基礎学力調査」での興味・関心が低いという結果から、身近な友達の奏法を観察したり、自分の吹き方がどうなっているかを、鏡で確かめることで意欲につながればと考えている。

(5) 学習活動と評価

過程	学習内容・活動	評価規準・評価方法	指導上の留意点
導 入 1	・前時までの確認をする。		・篠笛の吹き方の要点を思い出し、今日の学習の意欲づけをはかる。
導 入 2	・前時までの確認をし、息遣いや運指の練習をする。		・篠笛の吹き方の要点を思い出し、今日の学習の意欲づけをはかる。 ・奏法や運指の復習をして、ある程度つかめるまで何度か練習をするように指示する。
展 開	・本時の目標を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 今日の目標・・・「 打つ 」の表現を工夫しよう。 </div> ・「打つ」の奏法を確認し、練習に取り組む。 ・練習曲に取り組む。		・篠笛の「打つ」の奏法について説明及び範奏し、特に指の動きに注目するように促す。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聴き合い、お互いに気づいたことを話し合う。 	<p>■評価の観点② 篠笛の初歩的な演奏方法のおもしろさを感じ取って、器楽表現を工夫している。</p> <p>□評価方法 練習の観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「打つ」の練習の様子を観察し、本時の目標達成への見通しを立てる。 ・練習につまずいている生徒にアドバイスをする。 <ul style="list-style-type: none"> ※運指の確認 ※息のスピードや方向 ※指を動かすスピード ※部分練習の繰り返し ・できそうな曲を選択するよう助言する。 <p>※友達の発表を聞いたり、自分の奏法を鏡で観察して興味・関心を高め、自分の練習への意欲につなげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が達成できそうなものを選び、音色にも気を配れるよう配慮する。 ・発表に対するアドバイスをする。
		<p>■評価の観点② 篠笛の初歩的な演奏方法のおもしろさを感じ取って、器楽表現を工夫している。</p> <p>□評価方法 発表の観察 ワークシートの記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※「打つ」部分がきれいに聞こえるかを聴く。 ※音がよく出ているかを聴く。 ※息のスピード ※指を動かすスピード ※楽器のあて方や角度
	<p>評価規準に達している生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習した曲を、オクターブ高く吹けるように練習する。 	<p>評価規準に達していない生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「打つ」の奏法をもう一度確認する。 ・息の方向や角度をもう一度確認する。 ・練習曲の運指をもう一度確認する。 	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。ワークシートを見直し、学習したことをまとめる。 ・評価カードの記入 ・次時の予告 		<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の振り返りとして、自己評価カードを書くように指示し、次時への意欲につなげる。